

集会アピール

本日、私たち J R 東海労名古屋地本は、紀伊長島東長島公民館において、「紀伊長島駅乗務員配置廃止反対 1 2 ・ 2 集会」を開催した。

2 0 1 1 年 9 月 2 0 日、J R 東海会社は突如として、「平成 2 4 年 3 月を以て紀伊長島駅の乗務員配置を解消する。」と一方的に提案してきた。その理由として、1、他の乗務員区に乗務員養成の負担が掛かっている。2、乗務員行路の作成が容易になる。3、南勢地区の社員の減少により、要員確保が困難である。4、管理者の再配置ができる。事などを挙げている。

私たちは、重要な労働条件の変更、安全問題に大きく関わるこの重大な提案に対し、団体交渉すら行わない組合軽視の会社の姿勢と、なによりも働く者の生活基盤を奪うこの提案に、断固反対し、闘う意志を明らかにする。

もとより、紀伊長島の乗務員職場は昭和 5 年の駅開業後すぐ、荷坂峠の難所を越えるための基地として、乗務員や検修係が配置され、J R 移行後は日本でも珍しい駅に乗務員が配属される形態で存在し、5 0 年続いた乗務員職場は今、1 9 名の乗務員が在籍している。紀勢線という専門性の高い特殊線区であるが故に、地理や風土に精通し、経験を重ねた運転士が必要であり、今後の技術継承も含め重要視されなければならない。また、J R 東海会社は健全な一企業として社会への貢献・地域の活性化の為に、今後就職を希望する人達に対して、むしろ紀伊長島地区における職場の充実をはかることが必要なのだ。

今回の会社の提案理由は、まさに理由ならざる理由だ。いや、その向こうには経営基盤を揺るがす大きな理由が透けて見える。会社は今、2 0 2 7 年リニア中央新幹線開業に向け、徹底した効率化と経費節減を押し進めてきている。

福島第一原子力発電所事故後、J R 東海葛西会長は、「原発継続しか活路はない」として、すべての原発の稼働を訴えている。リニア中央新幹線には莫大な電力が要することは明らかであり、人命よりも「原発推進」なのだ。

私たちはそのお先棒を担がない。紀伊長島の問題はやがて形はどうあれ、様々な職場に波及をするであろう。

私たちは、生活基盤の変更、安全確保、公共交通性を奪う乗務員配置解消に断固反対し、闘い抜くことを明らかにする。

2 0 1 1 年 1 2 月 2 日

J R 東海労働組合名古屋地方本部
紀伊長島駅乗務員配置廃止反対 1 2 ・ 2 集会